



トロッコ鉄道

「観光特化」検討へ

株主総会 許可基準に利点

高千穂鉄道(TR)に代わって運行再開を目指す民営新会社、神話高千穂トロッコ鉄道は17日、臨時株主総会を開き、観光に特化した「特定目的鉄道」での事業申請も検討していることを明らかにした。資金不足から一般の旅客鉄道事業者としての認可が厳しく、コンサルタント会社(東京都調布市)が新会社に「選択肢」として提案。ただ、「コンサルに任せては不安」「観光目的でも」まず鉄道を走らせることが大事、など意見は割れ、結論は持ち越された。

総会是非公開。新会社は非公認。新会社が目指している旅客鉄道事業者としての認可は、コンサルタント会社は松田勝則(東京)と、延岡市(延岡市)を通じて、紹介された。同社は、現状の資金計画ではこれまで

国土交通省鉄道局による設定は一般の旅客鉄道と同様に国交省の認可制となる。特定目的鉄道での申請は例がなく、許可されれば全国初。利用は観光客に限定されるものではなく、運賃やダイヤの道より高い運賃の設定も

特定目的鉄道 鉄道事業法施行規則で「観光の目的を有する旅客の運送を専ら行う」と規定された鉄道。規制緩和の流れを受けて、00年3月の同法改正で新設された。通勤や生活路線を前提としないため、経営計画と事業継続性が許可基準から省かれる。

可能という。

新会社は高千穂一榎峰間の部分再開を目指しているが、TRは同区間の休止期限が切れる12月27日以降、廃線を届け出る方針。ただ特定目的鉄道の場合、新規の許可申請となり、廃線確定後も申請でき、資金確保の期間を延ばすことも可能だ。ただ、興和社長は「一般の旅客鉄道事業者として認可を求めていくことに変わりはない。廃線確定後の選択肢として

考えている」と話す。

「観光特化」の浮上について、延岡市北方町で募金活動をし、新会社に約210万円を寄付した「高千穂線を守る会」の早樋仁代表は、「廃線の期限が迫っている中で、観光目的でも鉄道が生きられるのなら仕方ない」と理解を示す。沿線住民らでつくる高千穂線全線復活熱望県民会議の粟田利枝議長も観光特化案を支持。「列車が走らなければ、どうにもならない。観光客が増えれば地域の活性化にもつながる。ただ、住民の生活路線として運賃面での考慮はしてほしい」と話している。

ただ、観光特化で許可基準が緩和されるとはいえ、資金面での課題は残る。現在の支援金の総額は、約4千万円。特定目的鉄道での申請でも、「安全性の確保が担保される資金は必要」(九州運輸局鉄道部)とされ、国交省鉄道局によると、新会社が部分開通を目指す高千穂一榎峰間の大小数箇所の鉄橋整備には、数億円の費用がかかるという。